



2024年度インド教職員招へいプログラム

実りの多い出会い—交流プログラムから得た洞察—



この5日間の経験を一言でまとめるのは至難の業だが、ここでは私の経験から得られたいくつかの学びや気づきを紹介する：

1. **早期の帰属意識**：東京ゆりかご幼稚園では、子どもたちは保育活動の一環として米づくりを体験する。子どもたちがこのプロセスに関わることで、幼少期からフードロスに関する重要な学びを得ることができる。
2. **責任を教える**：越谷北高校では、生徒たちが教室、トイレを掃除し、自ら清潔な環境を整えていた。この習慣は、生徒が社会に出てからも、役立つ重要なスキルである。
3. **歩行者への敬意**：滞在中、車のクラクションを聞いたことは一度もなかった。これは、コミュニティと他者への配慮を重視する文化を反映していた。
4. **現代と自然の調和**：都市と農村の両方の景観が、近代的な開発と豊かな緑を見事に調和させ、活気に満ちた調和のとれた生活環境を作り出している。

これらの経験は、責任、尊敬、持続可能性といったような価値観を自分の地域社会でも受け入れ、推進するきっかけとなった。

アクションプランーこれからの生活や教育活動にむけてー

本プログラムでの充実した経験を学校全体で共有した後、学校教職員や管理職と次のような行動計画を立てた

1. 「Shramdan 」という当番表を全学年で導入し、生徒が校内清掃をすることや、リーダーシップを身につけるような取り組みを進めている。
2. 日々のフードロスレポートを朝礼時に掲示し、生徒たちフードロス削減の重要性を理解し、行動できるようにしている。
3. 「Moolgyanプロジェクト」により、学校の敷地内で生徒たちが有機栽培ができる環境を用意した。
4. 生徒の健康に対する意識を高め、環境に対する配慮ができるよう、毎月「エコ集会」を実施している。
5. さらに、VidyaGyanエコクラブ、GenCAN、Wipro Earthianのメンバーは、近隣の村の公立小学校と公立中学校と協働する予定である。これは、持続可能な開発目標（SDGs）に関する様々な研修や指導を行い、持続可能な実践に対する理解を深め、それらを生徒と教師が日常生活や地域社会に活かすことを目的としている。